

小児の中耳炎*治療方法の比較

	鼓膜切開	レーザー鼓膜開窓術	超短期型鼓膜チューブ挿入	通常の鼓膜チューブ挿入
方法	● 極小のメスで鼓膜を切開する。	● レーザーにより直径1～2mmの小さな円形の穴を一瞬(0.2秒)であける。	● レーザーによりあけた鼓膜の穴に特殊な超極小チューブを①3ヶ月②6ヶ月程度留置する方法。	● 鼓膜に小さなチューブを2年6ヶ月以上留置する。
利点	● 鼓膜切開により中耳にたまっている膿や滲出液を排出する治療法。	● 1～3週間ほど開窓状態になるため、中耳粘膜が治りきるまで膿が排出されやすく、完治しやすい。 ● 繰り返し開窓を行っても鼓膜は元に戻る。	● 外来で簡単に(全身麻酔・入院不要)挿入できる。 ● 殆どの症例が、長期(2年6ヶ月以上)留置をしなくても治る。 ● 短期留置のため、鼓膜永久穿孔がととも起こりにくい。	● 留置期間が長い場合、他の治療法では改善が見られない症例に効果が見られる治療法。 ● チューブを留置しなければ完治が難しい症例もある。
欠点	● 膿が排出しきる前に閉じてしまいしばしば何回も切開が必要になる事がある。 ● 繰り返し切開を行うと鼓膜が薄くペラペラになり時には永久的に鼓膜に穴が残ってしまうことがある。	● 小児の中耳炎に対し、第一選択にすべきよい治療法ではあるが、レーザー機器がととも高価であり経済的採算が取れないため残念なことに普及が遅れている。 <u>※ 当クリニックでは年間延べ1100例ほどのレーザー開窓術を行っています。</u>	● レーザーの鼓膜開窓術ができない施設では実施できない。 ● 挿入したチューブが耳垂れに押し出されやすく、完治までに何度か入れなおすことがある。	● 小さなお子様のチューブ挿入は全身麻酔になるため一泊入院となる。 ● チューブ挿入中は水遊び・水泳・入浴時など、耳に水を入れない注意が必要。(専用の耳栓を使用するなどの対策がある。) ● 100例に3～4例ほどではあるが、永久的に鼓膜に穴が残ってしまう事がある。

鼓膜チューブの挿入について

■■ レーザー機器がまだまだ普及していないため、レーザー開窓術でも充分完治が望まれる症例に対しても、相当数チューブの挿入が行われています。インフォームドコンセント(説明を十分に受けて納得した上で治療を受ける)という言葉がありますが、本来各医療機関では、チューブ挿入の前に以下のような内容について十分に説明をする義務があると考えます。

- * 永久的に鼓膜に穴が残ってしまう可能性があること。
- * チューブの挿入は他の治療法を試してみても改善が見られなかった時の最終選択肢であること。
- * 留置中は耳に水が入らないようプール・水遊び・入浴など、生活に制限が生じること。
- * 他の選択肢として、**レーザー鼓膜開窓術という新しい治療法が確立され好成績を収めていること。**

レーザー鼓膜開窓術についての詳しいことは当院ホームページ <http://www.sakuraf.com/> をご覧下さい。

さくらファミリークリニック